㈱システムドライブ　代表取締役

瀬尾 隆

一般的にSEは、仕事の大変さから離職率も高いと言われている職業だ。
特に人命にも関わるような医療システムを手掛ける企業なら、重責は何倍にもなるだろう。
しかし『システムドライブ』の瀬尾社長は、楽しく働くことを何より大切にしており、
社員が活き活きと働ける環境づくりに余念がない。
その根底には、社員一人一人が会社（システム）を構成する重要な装置（ドライブ）を担い、
新しい令和の時代を共に駆け巡りたい（ドライブする）という想いがある。
事業を通じて医療現場を支え、人々の笑顔を守る――
信頼する仲間と共に、社長はこれからも前へ前へと駆けていく。

駆

「新しい令和の時代を、
信頼する仲間と駆け抜けていきたい」

© 2023 Synergy Souken Co.,Ltd.

迅速・柔軟な対応で医療システムを提供！ 医療現場を支え、仲間と令和時代を駆け巡る

北海道内の医療施設へのシステム導入・運用・保守を手掛ける「医療システム部」と、医療関連のシステム開発を担う「情報システム部」を展開し、医療現場を支えている『システムドライブ』。経験豊富な SE による対応で、多くの病院・クリニックから信頼を寄せられている。本日は渡嘉敷勝男氏が瀬尾社長にインタビュー。事業や社長の人物像に迫った。

SYSTEM DRIVE

株式会社 システムドライブ

北海道札幌市中央区北２条西２丁目４番地 マルホビル 4F

URL：https://systemdrive.co.jp/

▲オフィスを入ってすぐに設置されているゲームのディスプレイが、会社を訪れた人を迎えてくれる（上）。卓球で遊ぶ瀬尾社長とゲスト（下）。

COLUMN 今の社長を形づくった父親との絆

瀬尾社長を語る上で欠かせないのは、社長のお父様・憲二氏の存在だろう。対談でも話されていたように、お父様は早くから社長の興味の対象や素質を見抜き、成長を促すように最高の環境を整えてきた。パソコンを買ってもらったことの他、学生時代に剣道に打ち込んでいた社長のために、お父様がボーナスで新しい防具を買ってくれたこともあったという。それもあって剣道二段の実力者に成長した社長。当時を振り返り、「今があるのは父のお陰です」と感謝を述べる。

やりたいことを全力で応援してもらった社長は、今も当時のドキドキ・ワクワクを忘れないように遊び心を大切にしている。例えば、幼少期にドラクエで遊んだことから、大人になって自分でオリジナルのドラクエを作った。その技術を活かし、現在は一事業としてファミコンソフトの研究開発も手掛けている。また、事務所のデスクは卓球台にもなる仕様で、対談後はゲストの渡嘉敷勝男氏と卓球に興じる一幕も。いつも人をクスッと笑顔にさせる――その原点には、親子の絆があるのだ。

代表取締役
瀬尾 隆

北海道北見市出身。学生時代は剣道・スキーに打ち込む傍ら、モノづくりに興味を持ちプログラミングに熱中した。『札幌ソフトウェア専門学校』を卒業後、札幌市内のソフトウェア開発会社に入社。数年後にフリーランスに転身し、人脈とノウハウを築いた上で、令和元年に『システムドライブ』を設立。

ゲスト
渡嘉敷 勝男

after the interview 渡嘉敷 勝男・談

「医療システム開発というお仕事を、素人の私にも分かりやすく解説してくださった瀬尾社長。興味深いお話を伺えて、とても勉強になりました。社長の伝える力･聞く力は、医療従事者の皆さんにとってもきっと心強いものだと思います。また、対談後には卓球で遊ぶなど、笑いが絶えない中で、社長の文武両道な一面も感じることができました。これからも“好き”を強みに頑張ってくださいね！」

父親に買ってもらったパソコンで遊び学んだことが原体験

――『システムドライブ』さんでは医療系システム開発などを手掛けておられるそうですね。まずは瀬尾社長がプログラミングやシステムに興味を持たれたきっかけからお聞かせいただけますか。

私はファミコン世代で、小学生の時にファミリーベーシックというパソコン入門機で無我夢中でマリオを動かしたり、ドット絵など作って遊んでいました。そして中学生のころには、当時かなり高価だった 8Bit 最高級パソコンの X1 turbo ZII を父から買い与えてもらい、独学で BASIC を学び、ドラクエ風のゲームを作って遊んでいました。この時期に ZERO からモノづくりする楽しさを学んだと思います。早くから私を理解し、投資してくれた父には感謝の思いが尽きません。

――とても素敵なお父様ですね。幼いころから作り手側に興味を持っておられましたし、やはり学業もシステム関係の方面に進まれて？

ええ。『札幌ソフトウェア専門学校』に進学しました。そちらを卒業後は札幌市内にあるソフトウェア開発会社に入社。当時は Windows95 が出たころで、インターネットも普及し始めるなど、パソコンやネットの黎明期でした。そして 28 歳でフリーランスの SE になり、様々なフリーソフトを開発し、Vector に公開していました。過去にはフリーソフト 1,000 本という雑誌にいくつか紹介されたこともあります。その後、医療システムや検査システムの開発を手掛ける中でニーズを感じたことからこの分野を専門にすることを決めたんですよ。2019 年にそれまで同じプロジェクトに参加していた仲間たちに声をかけて法人化し『システムドライブ』を設立した次第です。

経験豊富な医療 SE として病院の様々なニーズに応えていく

――医療系システムと言いますと、具体的にどのようなお仕事なのですか。

主に電子カルテに関わるシステムの運用支援などを行っています。道内の病院ではまだまだ紙カルテが主流で、電子カルテの普及が進んでいないんですよ。そこで私共医療 SE が病院様の元へ伺い、ヒアリングを行って規模やニーズに合わせたシステムの選定から導入、運用、日々の保守まで一貫してサポートを行います。また、電子カルテのシステムは大手メーカーが作っているのですが、メーカー都合や予算により連携できない場合などもあるので、当社でお客様のご要望に沿って柔軟にサービス提供しております。個人情報を扱うのでセキュリティは何より重要ですが、当社では安全対策も万全な体制で実施しております。現在は道内を拠点にしていますが、いずれは道外にも積極的に出て営業所を構えたいと考えています。

――道外からもニーズがあるとは、御社のお仕事の質の高さが窺えますね。クオリティ以外のセールスポイントと言いますと？

迅速な対応も強みの一つです。医療システムですから、ミスは許されません。そのため何か不具合があれば速やかに対処し、ユーザ様にご迷惑がかからないように努めています。今は若い人材も入れて、育成しているところなので、この調子で少しずつ人を増やし、会社の規模を拡大していきたいと思っています。

――これからが楽しみですね。SE は常に多忙な印象がありますが、労働環境の面で気をつけていることは何ですか。

社員には、とにかく楽しく仕事をしてもらいたいですし、私も楽しく働きたいので、快適に働ける環境を整えたり、基本的には定時で帰宅できるように会社で取り組んでおります。ただ、医療システムは外来が休みの時に仕事をしなければいけません。金曜日の夜から月曜日の朝までに作業をしなければいけないので、どうしても土日は仕事になることがあり、その場合は、平日に代休を取ってもらっていますし、時間外手当も支給しています。

――大変なお仕事ですが、御社のような方々が頑張ってくれているお陰で、私たちが安心して医療を受けられるのですね。お話は尽きませんが、今後についてはどんな展望を描いておられますか。

ユーザ様とお話ししていると、「もっとこういう風につくってほしい」というご要望を伺うことがあるんです。そうしたユーザ様からの意見をヒントにオリジナリティ溢れる自社パッケージソフトを開発し、沢山のユーザ様に利用していただき、医療現場の裏方として支えたいと思っています。来年は今年開発した HomeDoctor が販売開始となるので、道内を皮切りに全国へと展開していきたいです。

――私も応援しています！

（取材／ 2022 年 11 月）

© 2023 Synergy Souken Co.,Ltd.